



No.17
2016年9月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
Peace-City
@mail.707.to

沖縄辺野古・高江と連帯 米海兵隊155mm榴弾砲の実弾演習監視・告発行動

「戦争法」が成立して1年。参院選を前にその発動を抑えていた安倍政権は選挙が終わると同時に、大きく動き出しています。沖縄・高江では、ヘリパット工事が強行開始されました。

「アメリカと一緒に戦争する国づくり」が大きく進められようとしています。沖縄辺野古・高江のたたかいと連帯し「戦争する国づくりを許さない」全国からのたたかいが求められています。

米海兵隊の実弾演習監視・告発行動に参加して

9月14日、雨の降りしきる中、一行13人は静岡を8時に出発しました。まず最初は、自衛隊の駒門駐屯地ゲート前を通り過ぎて基地の裏側に回り全員下車。基地の中に駐車してあるおびただしい74式、90式戦車群を見て、あまりにも多くの人殺しの車輛にビツクリ。ただ最新の10式戦車（ひとまると言っていた）は見つけ出すことが出来なかった。続いて、東富士基地の南部に当たる大野原一帯を自営。そして、監視地点のある畑岡射場に向つたため、マリーン道路を旧陸軍のトーチカを左手

辺野古の米軍新基地建設では、埋め立て承認の取り消し裁判で、「辺野古が唯一」とする安倍政権の主張を裁判所が追認するおびただしいです。

見つけ出すことが出来なかった。続いて、東富士基地の南部に当たる大野原一帯を自営。そして、監視地点のある畑岡射場に向つたため、マリーン道路を旧陸軍のトーチカを左手

に見ながら北上し、監視地点に到着。その瞬間、ドカーン、ドカーンと2発、地響きを立てた。腹底を揺さぶられたような強烈な爆音の歓迎にビツクリ仰天。それは付近で実弾演習をしている陸自の戦車砲の発射音でした。

この日で監視行動3日目。地元平和委事務局局長さんの説明によると、今回の編成は米軍大隊規模で430名、車両100両、榴弾砲12門。12・13日の2日間で248発、そのうち白燐弾が52発射された。

で米軍の専管区域でも自衛隊が使用できることがわかった。〈付記〉県会議員の平賀高成氏が視察を兼ねて参加されました。（木野 忠）

監視場所は、2坪程のテント張りの下に机、椅子3脚と簡単な設営で、県平和委事務局長と地元平和委事務局局長ほか数名で監視していました。

地位協定2条4項a



↑監視テント（御殿場市印野の東富士演習場畑岡射場）

つむじ風 スマホと貧困



「子どもの貧困」が大きな問題になっている。NHKの報道番組に対して視聴者から「映画・舞台の鑑賞をしたり、1,000円以上のランチを食べたりできるなら貧困とは言えない」などの投書が殺到したという。

しかし、これはやはり貧困である。今問題になっているのは「相対的貧困」。所得が全人口の中央値の半分未満で暮らさざるをえない世帯員のこと。食うや食わずの「絶対的貧困」ではない。私の携帯は「ガラケー」だが、スマートフォンがないと、LINEなどに参加できず交友関係が維持できないとか？スマートフォンは持っていますが、パソコンは買えないから、キーボードだけ買ってタイピングの練習をする。また、「百均」などで、身を飾るものが安く手に入り見た目きれいである。だから、今日の貧困は見えにくくなっている。

例の報道番組の女子高生は、専門学校進学は諦めたという。金のかかる塾には行けない。高等教育までは無理だ。このような実態が広がっている。教育の機会均等からはじき飛ばされているのだ。

貧困問題の本質は、子どもの発達する可能性を奪っているところにあるのではないか？（合戸 政治）

『平和の遺伝子』(1) 佐藤 博明

ある◇娘は、勤め始めて間もない頃、担任の6年生クラスで、教科書の平和教材・「平和のとりこを築く」を使い、広島原爆ドームを素材に、平和について考える学習に取組み、学年末にその成果を『平和の遺伝子(DNA)』という小冊子にまとめ発行した。この学習は年ごとに学年やクラスを変え、小冊子は今年3月で6号となった。そこには、生徒たちが本や資料を読み、議論をし、両親はもちろん、日本やアメリカの祖父母に戦争体験を聞き、現に住んでいるアメリカの環境や目線で綴った、多彩な「戦争と平和」論があふれている。例えば、ハーフの生徒が、祖父からかつての日本との戦争のことや、父親からベトナムやイラク戦争の話や聞き、懸念に書き綴るなど、いまの日本では見られない教育の姿である。



◇私の次女は、いまアメリカ・ヒューストンに住み、総領事館に勤めながら、



戦争法成立とそのあと

“戦争はダメだ”
という意識を常に

高橋 芳雄

はまり、産業革命によって、破壊兵器が人類を絶滅させるかもしれないという危機もあり得るという事態になって、はじめに人類は平和の大切さを知ったというのが、人間という最高に危険な生物ならではのね。

まずはおもても動物…いや、生物の世界は「弱い者いじめ」は原則になっているという現実があると思います。我々が肉を食したり、あるいは「メを食するの、牛や豚、稲なんかの望んでいないことではな〜、あくまで人間が相手？の弱みに付け込んでその栄養を略奪採取しているという考え方も、あなから間違っているのではないと思いませんか。弱い者いじめ…要するに弱肉強食は、人間社会にも当て

「軍隊がいないよりは、軍隊があった方が、少しはハッターが効いて、有事の際にはナメられないんではなからうか?」と考えるといるんだと思えます。ヤクザの見栄の張り合いと同じことを、国家レベルで始めてしまった…戦争法可決は、僕にとっては何とかな印象です。

問題なのは、戦争法の有無よりも、その法律をいかに行使するか…だと思つています。当時世界一民主的だったフイマール憲法が、ナチスの独裁を産むのに、まったく違法性がなかった…という恐ろしい経験を、他山の石として、日本人全員が

「明日はわが身の戦争法」という意識を持つことが重要なんだと思つています。皮肉なことに、その平和

への意識は、平和憲法下の日本よりも、休戦下でしかない韓国の方がはるかに強いのではないのでしょうか。

NHKの「100分名著」で、今月カントをやっています。だが、人間は放っておくとフリーに戦争を始める動物だということです。だから「戦争はダメだ」という意識を常に持つていないと、永久に平和は来ないのだそうです。可決されてしまった戦争法が、日本人皆に戦争に対する警戒感と危機感を促進する一穴として利用されることを、願つてやみません。

“他人事”と
思いこんでいない
だろうか

小林 祐子

今から17年前の出産の際のことです。つわりは常に船酔いのような苦しきで数カ月続き、陣痛の度に痛みで白目をむいて気が遠くなり、痛みで意識が戻る。多くの方もこの様な経験をされたかも知れませんが、喜びの前に、書重な経験をしました。

その時、強く思い考えた事がありました。人の痛み苦しみを、本当のところ本人にしかわからぬものはないだろうか?

という事です。自分の経験、それまで見聞きした知識から推測し、気持ちをほんの少しその人に近づけるのが精一杯なのだろう。それまでの自分の知っているつもりでいた事や、人の痛みをわかっているつもりを振り返る機会になりました。

私は昭和40年生まれです。小学生の頃はまだ、戦後という空気が漂っていました。戦争で負傷して、手や足を失った人を近所で見かけたり、親類の集まりでは自然と話題になり話を聞いたり、学校の先生は度々話をし下さいました。シヤフ島に大きな船三隻で行き、前後二隻は沈没させられ、自分の船だけ着いた等を…。友達の家に行けば、軍服の遺影があり、ほとんどの家で身内の方が戦死している、私も祖父に会って見たかったと考えた事もありました。

今、小学校の学校生活支援員をしています。ここ数年勤めていて、私と雑談していた子が「戦争をやってみない。」「と言った事が三回ありました。耳を疑いました。この子達はきっと四角い画面の中にあるゲームや映画と同じ感覚でそう思っているのだと思います。

先の戦争が、どの様に悲惨だったのか。誰によって何が起こされたか、私自身、経験していない者ではあるけれど、私の中に

伝わっている事は、私より更に知らない次世代に教え伝えなくてはならない義務があるし、学ばなくてはならないと子供達と話をしてきました。

しかし、戦争に関して更に更に知らない人は増えてゆく事だと思います。そして、二度と戦争にならないためには、学びの場、憲法を守り、法律の解釈を変えずにしっかりと守ることではないかと思つています。

多数の人が戦争経験者ではな〜、本当の痛みをわからない人がほとんど。今、現実には、もう日本に戦争は二度と起こらないと思つているのではないのでしょうか。もし何かの紛争や戦争状態になったとしても、自衛隊の一部の他人が当事者で自分の身には何も起こらない。他人事であると思ひ込んでいないのでしょうか。

戦争をしたい、という人は一人もいません。

戦争はいやだ

杉山 ゆかり

争を望んでいるかというところ、なんことはありません。では、戦争法をどう思つかと問いましたら、「戦争法だと思つていない」とのこと。

世の中のほとんどの人が戦争をしたくない。ではなぜ自民党が多数の票を得ているのか。ここからは個人の意見です。自民党以外の党が政権をとつても、日本が回つていかなければ、わずかな期間ですが、民主党政権の時、不幸な震災がありました。あの時、民主党は自民党のそれまでやってきた事に起因して起きた震災関連のあらゆる不幸な出来事の尻拭いさせられて、政権を追い立てられました。それを目の当たりにした人達はあきらめたのです。

私を含めた一般の多くの人達は、戦争以前の日々の生活に一杯です。戦争より、今日娘を保育園に何時に迎えに行けるか。スマホを欲しががる中学生の子供を、どうやってなだめるか。大受験をする子供に奨学金をいくら借りようか、返せるのか。身近に思えない戦争のことより、今日明日の自分の生活にいかに関与する政党であるのか、投票をする意思のある人(有権者の半数)はありますか。

戦争の事を真剣に考える時間のある方は、生活に余裕のある方でしょうかと思つてます。